

第4回渡嘉敷村観光振興計画策定委員会 議事録

【実施日時】2018年1月23日（火） 13:30-14:45

【開催場所】渡嘉敷村役場（大会議室）

【出席者】（敬称略）

＜策定委員会＞…計12名

大城良孝（策定委員会委員長）、小嶺哲雄（策定準備委員会委員長）三田井裕、
稲守清昭、宮平鉄一郎、金城健一、神谷和幸、我喜屋元作、金城満、新垣聡、
島村清、座間味秀勝

＜オブザーバー＞…計2名

池松来、金城渉

【委任状】…計4名

新垣徹、島村武、新里武広、神里敏明

事務局（敬称略）…計8名

渡嘉敷村：玉城広喜、内野珠子

ライヴス：花咲宏基、草間亜沙子、山岸彩夏、本盛聡、諸崎そよか

JTB 沖縄：池原和也

小嶺哲雄（策定準備委員会委員長）

ご案内の時間となりましたので、第4回渡嘉敷村観光振興計画策定委員会を始めたいと思
います。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。

委員で参加できない方が、4名いらっしゃり、委任状をお預かりしております。また、本
日の委員の皆様のお出席者数は12名で、委員会は成立しておりますので、委員会を進めて
いきたいと思ひます。

それでは、開会にあたりまして、策定委員会の大城委員長からご挨拶をいただきます。

大城良孝（策定委員会委員長）

皆様、こんにちは。

第4回渡嘉敷村観光振興計画策定委員会を開催します。大変お忙しい中お集まりいただき
ありがとうございます。

この観光振興計画策定については、策定準備委員会では6回の会議をもち、策定委員会
では3回の会議を持ち、また、合同委員会も開催し、本日で、策定委員会は第4回目の会議

となっております。策定委員会、策定準備委員会委員の皆様、ライヴスに骨を折っていただき、良い振興計画になって来たのではないかと感じています。

本日は、今まで作り上げてきたものを、皆様とチェックして、最終的に、皆様にご了解いただけるものに仕上げていきたいと思ひます。事務局からの説明を聞いて、お互いに意見を出し合つて、より良いものを作り上げていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

それでは、議事に入つていきたいと思ひます。

現在の状況ですが、策定準備委員会で素案を作り、策定委員会で内容を確認いただき、計画案を作りました。その計画案を、昨年末、村のホームページに掲載し、12月28日～1月10日までパブリックコメントを募集しました。その募集から、村民の方から、いくつかのコメントをいただいております。本日は、そのコメントを、この振興計画にどこまで盛り込むか、どのように盛り込むかを検討していきます。パブリックコメントへの対応について、事務局から対応案を説明いたしますので、ご検討をいただきたいと思ひます。本日が、最後の策定委員会となりますので、本日の委員会で、振興計画を最終的に作り上げていくこととなります。

慎重なご審議をお願ひします。

それでは、議事進行は、策定委員会委員長にお願ひします。

大城良孝 策定委員会委員長)

それでは、先ず、「パブリックコメントの確認」を事務局から説明してください。

ライヴス 花咲)

事務局のライヴスの花咲です。

先程、策定準備委員会委員長からもお話がありましたが、今日が皆様の議論を重ねたうえでの最後の委員会となります。

2回の策定委員会、6回の準備委員会を経て素案を作り、昨年12月14日に、策定委員会を開催し、素案についてご議論いただき、計画案を策定しました。その計画案を、12月28日～1月10日まで村のホームページに掲載し、パブリックコメントを募集しました。そのパブリックコメントを受けて、皆様に、修正案をご提示させていただきますので、皆様には内容をご検討いただき、本日、振興計画を作り上げたいと考えております。

それでは、パブリックコメントについてご説明させていただきます。

皆様にはあらかじめお配りしているかと存じますが、スクリーンにも表示させていただきますので、どちらかをご覧ください。

パブリックコメントは、2名の方から、併せて9件のコメントをいただきました。

一つ一つ説明をさせていただきます。

まず、29 ページの基本方針2「快適に観光でき、滞在できる受入体制づくり」についてです。「宿泊施設の老朽化が進んでいるため、宿泊施設のリフォームやリノベーションに資金を投入すべきだと思う。現代的な使い易さや清潔感が必要である。」というご意見をいただきました。対応策ですが、38 ページに、「民間施設の課題把握に努め、対策を検討」という文言を追記しました。

続きまして、31 ページの具体的な取組み「環境負荷削減に繋がる取組みの実施検討」についてです。「環境省が実施する『子どもパークレンジャー』というプログラムを活用し、小中学生に慶良間の自然についての理解を深める機会を提供してはどうか。」というご意見をいただきました。対応策ですが、「子どもパークレンジャー」という具体的なプログラム名を入れるのは、例えば、「島あっちい」等他のプログラムもあるので、「国や県の取り組む施策についての活用」という言葉にして、31 ページに文言を追記しました。

三田井裕 委員)

いまどこを読んでいるかわからないのですが。

ライヴス 花咲)

それでは、今から、スクリーンに表示されている「パブリックコメントでの意見概要まとめ」のコピーをとって、配布しますので、その間、スクリーンに表示されているまとめをご覧ください。ゆっくりと、説明させていただきます。

引き続きまして、35 ページの具体的な取組「外来種への対策の取組みスケジュールについて」です。外来種の対策は、「緊急性の高い問題だと思う。調査→対策→効果のサイクルをすぐにでも始めるべきではないか。」というご意見をいただきました。対応策ですが、35 ページにありますスケジュールについて、長期を短期に変更しました。

続きまして、50 ページの目標値「渡嘉敷島を訪れる入域者数等について」です。「表やグラフに把握できる限りの情報を反映させてほしい。ナガンヌ島の利用者は月毎に把握すべき。冬期に必要な入域者の増分については、各事業所の設備維持や人材確保にかかる経費を算出のもと決めるべきではないか。目標値はどのような根拠で決められているのか明記して欲しい。」とのご意見をいただきました。対応策は、50 ページのグラフの下に、目標値の根拠を明記しました。

続きまして、5 つ目ですが、26 ページの課題「外国人観光客の誘客」についてです。「ターゲットが明確ではない。将来的にはターゲットをしっかり絞った方がよい。」というご意見をいただきました。対応策は、26 ページに、ターゲットについて明記しました。

続きまして、具体的な取組み「観光客受入体制の整備」についてです。「村内に子供の遊び場があれば、家族連れの観光客が海で遊べない時も島に来られると思うので、そのような施設を作るのも一つの手であるだろう。」とのご意見をいただきました。対応策は、38

ページに、交流施設の検討について追記しました。

次の7つ目、8つ目のご意見ですが、策定委員会、策定準備委員会でも議論されましたし、観光振興計画の中に、内容自体は書かれていますので、その旨を、パブリックコメント提出者にご説明したいと思います。

最後に、43ページの具体的な取組み「観光メニューの創出」についてです。「冬場や雨天、海が荒れているなどの海に入れず状況の際に、観光客が陸上でトレッキングや自然観察を自分自身で歩いてできるコースや周遊観光ルートがあると活用できると思う。特に周遊観光ルートのガイドマップを多言語で作成して、配布すると陸上の魅力を伝えられるのではないか。」とのご意見をいただきました。対応策は、43ページに、「必要に応じて、周遊観光ルート等のガイドマップの作成・配布も検討します」という文言を追記しました。

以上、パブリックコメントのご意見について、事務局で対応させていただきました。

これを元に、今読み上げたところが1～6でありまして、7のパブリックコメントについても、計画書に掲載をするという形で、最終の計画書にしたいと考えております。

これから5分間、パブリックコメントの意見、それに対応した事務局の文言等について、あらためてお読みいただき、皆様のご意見をいただけたらと存じます。

なお、6番は入域人数の根拠の明記ということになります。大変失礼しました。

ライヴス 花咲)

皆様、5分経過をしましたが、読み込みの時間は十分でしょうか。

それでは、委員長の議事のもと、皆様のご意見をいただければと思います。

大城良孝 策定委員会委員長)

意見のある方は、挙手をして発言してください。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

7番の61～63ページまでのパブリックコメントは、今回の修正案に載っていないコメントということでしょうか。

ライヴス 花咲)

いえ、61～63ページのコメントは、先程、読み上げたコメントで、そのコメントに対応した修正について、ご説明させていただきました。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

意見のまとめということに入っていくということですか。

ライヴス 草間)

実際にこのようなパブリックコメントがありましたということで、資料として掲載するという事です。

ライヴス 花咲)

他の自治体のケースでは、掲載している場合と掲載していない場合があります。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

例えば、外国人観光客の誘客の対応について、どのように対応していますか。

ライヴス 花咲)

振興計画の 26 ページに対応した文章を書かせていただいております。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

この 61～63 ページは、概略というかたちでここに示していますか。

ライヴス 花咲)

伝わりやすいように多少修正していますが、文章自体は、ほぼそのまま掲載しています。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

パブリックコメントに対して、どのように対応しているかを説明してほしいということです。

ライヴス 花咲)

先程、事務局から追加で、お手元に新たに資料をお配りしていますが、その資料をご覧ください。例えば、外国人観光客の誘客ですが、一番右の方に対応箇所ということで、26 ページに対応をさせて頂いております。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

このコメントにもとづいて 26 ページに追記をしたということですよね。

ライヴス 花咲)

はいそうです。

この赤い部分の箇所が、パブリックコメントに対応して追記をしたところです。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

このパブリックコメントを計画書に掲載する際、パブリックコメントを受けて、どのページに対応しているかということがわかりやすくした方が良いのではないかと思います。

ライヴス 草間)

パブリックコメントに対して、どこの部分で対応したかについては修正できます。

ライヴス 花咲)

ひとつ懸念材料があるのですが、例えば外国人の観光客については対応できているのですが、他のパブリックコメントで対応できていない箇所があります。パブリックコメントを掲載し、対応策まで、計画書に盛り込むとなると、対応していないパブリックコメントについては、対応していないという形で表れてしまうので、不信感が生まれるのではないかと思います。他の自治体では、パブリックコメントは掲載しますが、その対応策については、掲載しているケースは、私は、見たことがないのですが。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

会議の中で説明されれば良いと思いました。

実際に出た意見がどこに対応したかがわからないということがあったので、敢えて質問しました。

大城良孝 策定委員会委員長)

どんどんと確認あるいは質問をお願いします。

我喜屋元作 委員)

Wifi 環境の整備についてですが、計画の中では、スケジュールが長期となっています。村の計画は平成 30 年～平成 34 年なのですが、この期間が長期と言う考えになりますか。

ライヴス 草間)

5 か年の計画とお聞きしておりますが。

我喜屋元作 委員)

そうですね。このパブリックコメントからすると、長期では遅い気がします。平成 30 年から始まりますので、長期よりは中期にした方が、パブリックコメントへの対応になるのではないかと思います。

ライヴス 花咲)

いま我喜屋委員からありましたのは、38～39 ページにあります。

ライヴス 草間)

長期から中期への変更のご意見がありました。皆様、それでよろしいでしょうか。

座間味秀勝 委員)

今、我喜屋委員から話があったことと近いのですが、この計画自体が、平成 30 年～平成 34 年の 5 か年の中で実施する計画という理解でよろしいですね。

そう考えると、30 年に実施するのが、短期かとか、短期、中期、長期と言う定義、時系列がわかりません。

ライヴス 花咲)

この計画が施行されるのが本年の 4 月 1 日ですが、そこから 1 年から 1 年半ぐらいで取り組んで実行できることが短期で、2 年～4 年が中期、5 年以上かかるのが長期だと思いません。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

短期、中期、長期の定義をつけたら良いのではないのでしょうか。

座間味秀勝 委員)

そうすると、短期だけを拾い上げてみても、短期に該当する計画のボリュームが非常に多いのですが、実際に、実現可能なのか、そのことを検討しなければならないのではないのでしょうか。

ライヴス 草間)

この該当のスケジュールについては、各課にヒヤリングをさせていただき、確認をいただいております。

座間味秀勝 委員)

この部分はこの課、この部分は民間と仕分けはできているのですか。

ライヴス 花咲)

該当する課には確認をさせていただきました。しかしながら、課がまたがるものがあったり、観光協会が設立されると、観光協会に移行する計画があったりしますので、商工観光課がチェックをしながら、進めていくということになります。

座間味秀勝 委員)

新年度に入ってから具体的な施策、スケジュールはどのようになりますか。

ライヴス 草間)

具体的には新年度に入ってから策定になります。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

今の件は、各年度の実施計画を作った後の対応となります。

ライヴス 花咲)

今回策定する計画は、今まで、長期の計画がなかったのですが、各年度で取り組む計画の指針となります。

ライヴス 草間)

今のところ各課に確認が取れておりますのが、短期、中期、長期というレベルでできるかどうか、無理が無いかという事について、ヒヤリングをさせていただきました。

先程のお話ですと、島内 Wifi 環境の整備については中期で、皆さま異論なしということでよろしいでしょうか。

ライヴス 花咲)

38、39 ページについてですが、島内 Wifi 環境の整備については中期に変えていくということになります。

大城良孝 策定委員会委員長)

どうぞ、皆様の意見を述べてください。

稲守清昭 委員)

こういうのはみんな短期がいいということですよ、重要な課題ばかりですから。これは、所管する各セクションが、バックボーンの中、実行可能なのか、短期、中期、長期のタイムスケジュールをどうするのかを考えるのですか。それとも、この計画を、理屈の上で、まず決めて、各セクションが、短期、中期、長期で取り組むのか決めるのですか。どういう過程で決めるのかが、ちょっと分からないのですが。長期で良いものはないと思いますが。

ライヴス 花咲)

このスケジュールは、関係する各課にチェックをいただきました。この計画が実施できる

かどうかは、予算が確保できるか、法律の問題をクリアできるかどうかとかが根拠になってきますので、各課に現状をもとにチェックいただきました。

稲守清昭 委員)

そうであるならば、このスケジュールは、優先順位を付けたということですよ。より優先順位が高く、実施可能なものを短期に持って来て、急ぐけれども取り組めないものを長期に持ってきたということですよ。長期で良いというものはないですよ。

ライヴス 花咲)

皆様にご議論いただいてここにある計画は、全て大切なものだと思います。それらの計画を実施していくために、予算であるとか法律であるとかの根拠が必要となります。これらの計画は、役場の各課の職員の方々が、日々取り組んでいらっしゃる中で、予算が来年度付きそうで、平成 30 年度から実施できるであるとか、そういった観点で、各課のチェックを受けて、このスケジュールが出来上がっています。

稲守清昭 委員)

そうであるならば、今から、短期、中期、長期を入れ替えることは難しいのではないですか。どれかを短期に持ってくると、理屈の上では、どれかを、中期、長期に入れ替えなければならなくなるのではないですか。

ライヴス 草間)

今、議論されている島内 Wifi 環境で申し上げますと、総務課が所管ということになりますので、長期から中期にかえるということになると、総務課長に確認するという事になるかと思いますがいかがでしょうか。

稲守清昭 委員)

例えば、島内の案内標識とか、提案もさせていただきましたけども、すぐにでも始めるべきかと思いますが、それが長期になっているわけですよ。計画の 5 年以内にやれば、いいやとなっています。その 5 年間に来る観光客は、どうするんだということで、僕からするとなるわけです。そういう意味では、短期、中期、長期の区分は、どういう裏付けでされているのかが、いま一つ分からない。

ライヴス 草間)

ご指摘いただいている通り、短期、中期、長期と分かれていますけども、実施を開始するのが長期なのか、取り組む期間が長期なのか混在していることが課題となっています。案内標識で申し上げますと、既に、今年度も行っているものがありますが、継続して行っていく

ということで長期になっています。

次年度の実施計画の中では、実施時期と、継続して取り組むのか分かるように、時期を設定したいと考えています。

座間味秀勝 委員)

分かりやすいのは、1枚紙の中に、30年度～34年度まで、実施項目を並べることです。

そうしないと、非常にあいまいなものになると感じています。

30年度に全部やるのか。商工観光課だけでなく他の課に分散しているものもあると思いますし、商工観光課、観光係だけでできるのかなど。

スケジュールの立て方として、実際に可能なスケジュールとして、しっかり検討した方が良いかと思います。

ライヴス 草間)

この短期、中期、長期のスケジュールは、先程も説明させていただきましたが、項目と共に、短期、中期、長期というレベルで、各課にご確認をいただいております。本当に実施できるのかといことは、各年度に作る実施計画にしっかりと時期を明記する必要があるかと思っています。

神谷和幸 委員)

この振興計画は、あくまでも基本計画で、5年の内に行う施策を大枠で示しているものだと思います。この計画を、毎年実施計画を作って落とし込んでいくのか、それとも、3年ぐらいのスパンで実施計画を作成して落とし込んでいくのか。どのように、実現していくのでしょうか。

ライヴス 草間)

実施計画が、単年度ごとになるのか3年ごとになるのか、今後、協議が必要かと思っています。現在は、未定です。

ライヴス 花咲)

あわせて、観光協会の設立と密接に関わってくるかと思っています。観光協会の業務内容にかかわる所がありますので、これから協議が必要となってくるかと思っています。

また、基本計画である振興計画がない中では、計画的な実施計画を作ることもできない状況から、皆様のお力をいただいて、策定する手前まで来ました。

稲守清昭 委員)

そういう意味では、短期目標、中期目標、長期目標という捉え方だと、すんときます。

ライヴス 花咲)

長期についても、すぐに取り組みが始まる計画もあるということでお考えいただければと思います。

島内 Wifi 環境ですが、平成 30 年度から、一部使いやすくなるとお聞きしていますが、中期でもよろしいでしょうか。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

振興計画の中で、中期にしてあっても、実施計画の中で前倒しすることができると思います。実施計画の中で、コントロールできる範囲で良いのではないのでしょうか。

ライヴス 花咲)

それでは、島内 Wifi 環境については、中期で、総務課と調整をすること。さらには、策定準備委員会委員長からお話がありましたが、実施計画を前倒して対応もできるということで、対応させていただいてよろしいでしょうか。

大城良孝 策定委員会委員長)

よろしいです。

ライヴス 花咲)

それでは、他にありますでしょうか

神谷和幸 委員)

JTB 沖縄の神谷です。2 点あります。

まず、1 点目ですが、入域者数の KPI の数値ですが、4 点掲げられているかと思いますが、それ以外で、看板の設置数であるとか設定できるのではないかと思います。計画は多くありますが、KPI が設定されているのが、4 項目という理由を教えてください。

次に 2 点目ですが、入域者数の目標を見ていまして、満喫プロジェクト等と連動していたりすると思うのですが、下期は、9 月から倍増するという高い目標です。目標が高いことは重要で、大切ですが、沖縄県の目標としても、倍増という数値は設定されていないのですが、目標設定の根拠について教えていただければと思います。

ライヴス 花咲)

まず、1 点目ですが、前回の策定委員会でお示した目標数値の中から、今回、4 つに絞らせていただきました。削除した項目については、比較できる基準となる数字が見つけれなかったことが要因です。来年度以降、比較できる数字を拾っていくことができればと

思いますし、観光協会ができれば、比較できる数字を見つける作業ができるのではないかと
思います。

次に、2点目ですが、5年間で、約27,500人増を目指すという大枠があります。その中
で、今年の夏は、住民の皆様の生活の負荷を考慮しても、キャパオーバーだったのではない
かという意見がありまして、夏の入域者数については、抑えた目標になっています。従い
まして、夏の増加を抑えた分、冬期の増加を増やすという調整を行いました。

ライヴス 草間)

9月の部分については、昨年は、高速船の欠航があり、人数が少なく、目標が高いように
見えますが、例年は、2万人近くの数字がありますので、大きすぎる目標ではありません。
満喫プロジェクトで掲げている目標数字も参考に、逆にこれくらい頑張らないと目標
には到達できないという数値となっています。

ライヴス 花咲)

この数字が基本計画である振興計画に提示されますと、冬期にいかにお客様に来ていただ
けるかの施策を、実施計画の中で示していかなければなりません。

神谷和幸 委員)

分かりました。

座間味秀勝 委員)

その流れで行きますと、43ページの観光メニューの創出が、長期となっているのですが、
この数値目標を達成しようとする、すぐに策を打たなければならないのに、長期では、
辻褄が合わなくなってきました。

ライヴス 草間)

いつ着手するか継続して取り組むのかが混在していることが問題となっていると思いま
す。

ライヴス 花咲)

ここの長期は、取り組み始めて、継続して取り組むというものになっています。

神谷和幸 委員)

観光メニューの開発ですが、地元の方が観光資源として良いと考えても、実際にニーズが
あるのかということで対応していかなければなりませんし、それをどうやって、プロモー
ションしていくかということとも連動していきますので、長期となっているのだと思いま

す。

ライヴス 草間)

今すぐできることと、状況が整わないとできないことが混在しています。

神谷和幸 委員)

尺度として、観光メニューを作る KPI を、5～20 という数字を出していますが、20 メニューをつくるのが目的ではなく、5 メニューでも、その中に、人気商品であれば良いという考え方もあると思います。

ライヴス 花咲)

先程からのスケジュールの議論ですが、今日の議論については議事録に残りますので、実施計画を作る際に、継続して続けるということで長期になっているが、早く取り組む施策については、そのことを、実施計画で記述することができます。そういったことも含めてご意見をいただければと思います。

大城良孝 策定委員会委員長)

他に何か確認したいこと、意見したいことがあればお願いしたいと思います。

先程、事務局から話がありましたように、長期のスケジュールの記載でも、単年度の実施計画においては、皆さんのご意見を踏まえて、取り組むべきことは取り組むように実施計画を立てていくということに致します。

パブリックコメントの確認については、次に進んでよろしいでしょうか。

次に、観光振興計画の修正および最終確認に進みます。

説明を、事務局からお願いします。

ライヴス 花咲)

本日、パブリックコメントの確認並びにパブリックコメントの対応についてご報告をし、皆様にご討議いただきました。皆様からは、短期、中期、長期についてのご意見をいただきましたが、ご意見を反映するために、修正が必要となって参ります。修正については、商工観光課と協議をし、皆様に、修正案をお配りして、皆様の承認をいただいて、正式な観光振興計画としたいと存じますが、いかがでしょうか。

大城良孝 策定委員会委員長)

それでは、策定委員会委員の皆様を確認をして、最終確認ということで進めてください。

ライヴス 花咲)

それでは、あらためまして、スケジュールを確認したいと思います。

本日の委員会は、第6回の委員会でした。本日、ご意見をいただきましたものについて、修正を行いますので、その修正した計画をご確認いただき、最終決定とさせていただきます。策定委員会、策定準備委員会の皆様には、計画書を、2月28日までに皆様のお手元に届くような形で進めて参りたいと思います。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

先程から議論になっています、短期、中期、長期という区分ですが、早期、中期、継続に変えた方が良いのではないかと思います。早期は、1、2年で実施するもの。中期は、5年の計画内で実施できるもの。継続は、既にやっているものを、パワーアップして続けていくものという感覚で計画を見れないかと思い、意見を述べさせていただきます。

ライヴス 花咲)

ここは、事務局の方で、持ち帰らせていただき、皆様に分かりやすい区分をご提案はさせていただきます。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

ここについては、今のうちに確認してもらった方が良いかと思います。

短期、中期、長期で良いということであれば、そのままでも良いですし、確認した方が良いかと思います。

神谷和幸 委員)

一番大切なのは、外国人対応だと思います。皆様が好まざるとも来ますし、確実に増えていくと思います。クルーズ船も増えてきますし、沖縄県自体、日本全体がインバウンド増加に積極的に取り組んでいますので。そこで、外国人観光客の受け入れ体制の整備は、早急に対応できることは取り組んでいく必要があるかと思っています。東京オリンピックが開催される、この2~3年は大事です。そして、この数年の取り組みが成功した観光地が、沖縄県内でも、ブランド化されて残っていくんだと思います。

日本全国各地で取り組まれますので、渡嘉敷村も、外国人観光客の受入体制整備は、是非、やっていただきたいと思っています。

ライヴス 花咲)

今、策定準備委員会委員長から、ご意見がありましたが、現在の計画案のスケジュール表記は、短期、中期、長期という区分をしていますが、もっと分かりやすくする区分として、早期、中期、継続という区分が良いのではないかとのご意見でした。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

実際やっているものがあって、それをパワーアップしていく必要があるものを継続にします。

稲守清昭 委員)

継続については、ずっと継続していかなければいけないものばかりではないでしょうか。ハコモノのように作ったら終わりではなく、今、振興計画で上がっている項目は、観光地である限りは継続していかなければならないのではないかと思います。このスケジュールは、いつ着手するかということだと思います。そこで考えると、継続という言葉は、どうかと思います。

ライヴス 花咲)

あらためて、説明させていただきますと、このスケジュールには、二つの意味が混在しています。

一つは、実施する期間が、短期、中期、長期となっています。もう一つは、早く取り組まなければならないという緊急性という意味合いで、短期、中期、長期となっています。

稲守清昭 委員)

いつまでに実現するか、いつから着手するかということを表現するには、継続は、分かりにくいと思います。

ライヴス 花咲)

例えば、早期にも○があって、継続にも○があるという表記方法はあるかと思います。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

修学旅行の誘致等、既にスタートはしていて、継続して行われているものがいくつかあります。

稲守清昭 委員)

私は、着手として、言葉を定義しました。看板一つ作るのに、5年も掛かるのと思った訳です。言葉の定義が必要だと思います。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

中には単年度のものもあります。単年度は、早期なのかという問題もあります。混在しているので、掌握するのが難しいので、ここで言葉が引かかるようであれば、修正できることがないのかなと。

ライヴス 草間)

このスケジュール案は、担当課に確認させていただいておりますので、ここに、継続を入れて、もう一度、商工観光課、各担当課の皆様を確認して進めていくということでいかがでしょうか。

大城良孝 策定委員会委員長)

今の説明でいかがでしょうか。

ライヴス 花咲)

今、皆様も混乱されていると思いますし、事務局でも分かりやすく表現する方法については再考したいと思います。そこで、商工観光課・事務局で、スケジュールについては案を作らせていただき、各担当課の皆様にご確認いただき、修正したものを、委員の皆様にご確認いただき、承認いただくということでいかがでしょうか。

大城良孝 策定委員会委員長)

今の説明では、スケジュールを変えるということではなく、わかりやすい表現に変えていくということですので、あらためて、委員会を開催して承認を得る必要はないかと思えます。修正したものを、各委員に承認していただくようお願いします。

ライヴス 花咲)

他に、皆様、ご意見はありますか

大城良孝 策定委員会委員長)

何か確認したい事があれば、その他ということで、意見を述べてください。

稲守清昭 委員)

このメンバーで、こういった趣旨の会が開催されるのは、この委員会で最後ですよ。今回まとまった計画は、個人的には素晴らしい計画で、良くまとめたと思います。

まとまることは良いのですが、懸念材料が1つあります。

今、私は、区長をしているのですが、区長の主要な仕事のひとつに、土着信仰に基づいた伝統行事を守るということがあります。

観光というのは、その土地の文化を見、人々の暮らしを知るというのが、本来の意味らしいです。地域の文化や歴史は、観光資源と、この振興計画にも書いてあります。

私の仕事に、伝統行事を遂行することがありますが、その仕事をしている中で、我々の世代と、若い世代、とりわけ若い世代の半分は移住者なのですが、若い世代の伝統文化の認

識に相当のかい離があるわけです。つまり、土地の文化を見、人々の暮らしを知ることが観光資源であるという前提に立つならば、危機感を持っています。

これは個人的な意見ですけれども、危機的に感じる程、伝統行事の遂行が難しくなっていると感じています。

観光資源である伝統文化とかが、現実的には、それらの価値についての世代間の認識のかい離があって、これから先の事について懸念を持っています。そのことについても、皆さんの意見を聞いたかったです。どうしても、観光は、経済的な効果を優先しがちですが、地域の伝統文化を守るという部分は取り残されがちになります。

本当は、地域の伝統文化が守られていて、目に見えた観光資源もあって、お客さんはその土地を好きになると思います。

世代間の伝統行事、文化の価値観のかい離があることに、これからも、伝統行事を行うことができるのか懸念を持っています。

このことは、皆さんにお話しておきたいと思います。

大城良孝 策定委員会委員長)

今の稲守区長さんのお話ですが、我々も行政におりますので、しっかりと、問題意識をもって対応したいと思います。この振興計画にも、年間の村の行事、地域の行事については表記されていますので、これらの行事を目当てにお客さんに来ていただけるよう、役場、観光協会が設立できた時には、観光協会が、効果的な PR していきたいと思います。そして、足を運んでくださったお客様に喜んでいただくために、島に住んでいる人が、積極的に参加できるように努力をしていきたいと思います。

他のことでもよろしいですよ、どうぞ。

三田井裕 委員)

沖縄青少年交流の家は、観光と言うよりは、教育という視点で見っていますが、村と同じく、来る人が減れば潰れます。沖縄青少年交流の家は、稼働率が 50% を切ると廃止の対象となるのですが、今年は、50% を切ります。47% くらいになるかと思っています。

親方日の丸の時代は良かったと思いますが、私たちも厳しい時代です。村も厳しい状況があるかと思っていますので、共倒れにならないよう、一緒に頑張っていけないと思っています。島に住む職員もたくさんいます。

私たちも、来客者数を増やすことを真剣に考えていますので、皆様と一緒に頑張っていきたいと思っています。

大城良孝 策定委員会委員長)

沖縄青少年交流の家の所長の三田井委員からもお話がありましたが、天気や、相手の都合で、キャンセルになって、計画通りにいかないということがあります。交流の家に来てく

ださるお客さんも、村の船を使っていただきますので、交流の家の皆さんも努力をされているので、3月まで、まだ少し時間がありますので、稼働率が上がるように、皆様にも協力していただければと思います。村内の人たちも使える方法がありますので。

他にはございませんか。

事務局は大丈夫ですか。

ライヴス 花咲)

ありません。

皆様のご協力に感謝しています。

小嶺哲雄 策定準備委員会委員長)

今回の振興計画の最終的な確認ということで、ご協力をいただきありがとうございました。これで策定委員会は、最後の会議となります。

この会議で出たご意見を精査して、しっかりとした振興計画を皆様にお示しできると思います。その後に、策定委員会委員長から村長に答申ということで、計画を提出していただきます。

6月から皆様には、ご協力いただきありがとうございました。

駆け足の部分もあり、足りないこともあったかと思いますが、このように観光振興計画ができあがりました。

本当にありがとうございました。

これで第4回渡嘉敷村観光振興計画策定員会を閉じたいと思います。

以上